



# 園だより

平成31年4月9日・10日

佛教大学附属幼稚園

## 「生まれたからこそ、生んだからこそ」



園長 田中典彦

あたらしく幼稚園のおともだちとなられたみなさん、入園おめでとうございます。また、保護者のみなさま、おめでとうございます。当園の関係者一同、「さくらがさーいた ランランラン 嵯峨野ひろっぱ ランランラン さくらのは一なの 幼稚園 さくらのほほの 子どもたち みんな仲良し よい子ども ののさまの子 よい子ども」と園の歌を歌いながら、こころよりお迎えいたします。ののさまというのは仏様のことです。当園ではすべての子どもさんを仏様の子どもであり、またそうあってもらえるようにお育ていたします。

卒園の子どもたちをお送りしたことに、少しのさみしさを感じますが、また新しい子どもたちをたくさんお迎えして春をむかえます。「どんな子どもさんがこられるのかなー」と楽しみにし、なんだかあたらしい気持ちになり、「心機一転!」と、こころを新たにすることもこの時期です。

園長室は円形になっていて、庭に面する窓からすべての園舎を見わたすことができます。もちろん園庭で走り回る子、ブランコにのっている子、三輪車で遊ぶ子、ジャングラミングにしがみつく子、いろいろな子どもたちの姿を身近にみることができます。それとは逆に、子どもたちからもこちらの様子がよく見えているのです。時々窓越しに合図があります。顔を出すと、いろんなことを伝えてくれます。先日も何人かの子どもが「もう、土筆がでていたよ」って、見せにきてくれました。「昨日ね、庭でウグイスが鳴き始めたよ」。いささか鈍感になっている大人に気づかせてくれるように話してくれるのです。ほんとうに無邪気で、素直で、明るく、かわいい子どもたちです。

この月は仏教をお開きになった釈尊のお誕生の月です。今から2483年も前のことです。インドのシャカ族の国に、父をシュドーダナ王、母をマーヤーとして一人の王子が誕生したのです。シッタールタと名づけられました。生まれてすぐに「天上天下 唯我独尊」(宇宙を眺めてみても、地球上を眺めてみても、私と呼ばれているものが尊い)と言われたのです。頭と心の働きを持ってこの世に生まれた私が、世界の中心(因)なのです。私がないと、生まれていない私にとっては、すべては起こりようもなく、何の意味もなく、何の価値もないのです。楽しいことも嬉しいことも嫌なことも苦しいことも私があるから起こるのです。しかし、「年を取りたくなくても年を取る」「病になりたくなくても病にかかる」、思い通りにならないことの方がはるかに多いのです。だから「一切皆苦」と言われるのでしょう。

生まれたからこそ、このような人生と言う旅に出、冒険に出るのです。幼稚園、小学校そして中学校へ。仏教でいえば、生きるという修行です。子どもさんはそんな修行の道を歩んでゆくのです。

生んだからこそ、あの幼いあの一声、一言、あのしぐさ、なんともいえないあの可愛い表情に出会うことができるのです。現代の医学でも、「すべての材料があったとしても、10ヶ月の間にこんな仕事は不可能だ」といわれるような大仕事をしてくれたこと、つまり生んでくれたことへの恩返しなのです。生むときの痛み、苦しさをすっかり忘れさせてくれるのです。そして「どのように成長してくれるのかな」と楽しみにすることができるのです。

保護者のみなさまには不安なことも多々あるかと思いますが、当園では仏の教えにしたがって、「明るく、正しく、仲良く」を身につけていただけるよう保育教育をしまいます。安心してお任せいただきたいと思っております。どうぞ私たち保育者とともに育児の道を歩んでいただけるようお願いいたします。